

令和7年6月16日

独立行政法人水資源機構

揖斐川・長良川総合管理所

長良川河口堰では洪水を安全に流下させるゲート全開操作を終了 ～塩水遡上を防止し安定取水確保のため平常時の操作に切り替え～

1. 概要

長良川河口堰では、前線の影響による洪水を安全に流下させるため、6月15日（日）8時11分にゲートを全開にしました。その後、河口堰地点流量が全開操作の基準流量毎秒800立方メートルを下回ったことから、塩水遡上を防止し水道用水等の安定取水を確保するため、6月15日（日）22時58分に全開操作を終了し、河川環境の保全に配慮しつつ、平常時の操作に切り替えました。なお、塩水の遡上はありませんでした。

2. 状況

流域平均累計雨量 : 101mm（6月14日8時から6月15日14時）
河口堰最大流入量 : 毎秒約1,400立方メートル（6月15日13時20分）
全開操作開始時刻 : 6月15日 8時11分
全開操作終了時刻 : 6月15日 22時58分
全開操作継続時間 : 14時間47分

※上記の流量は速報値であり、今後変更になることがあります。

今回の全開操作は、平成7年7月の河口堰運用開始以降217回目であり、本年においては2回目となります。

また、運用開始以降最大の出水は、平成16年10月台風23号による洪水であり、忠節地点毎秒7,667立方メートルの流量を観測しています（国土交通省水文水質データベースより）。

発表記者クラブ： 中部地方整備局記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、
三重県政記者クラブ、第二県政記者クラブ（三重県）、
桑名記者クラブ

お問い合わせ先： 揖斐川・長良川総合管理所
総務課長 恵谷（えや）
住所：三重県桑名市長島町十日外面136番地
電話：0594-42-5012（代表）

※この記者発表資料は、長良川河口堰ホームページでご覧いただけます。

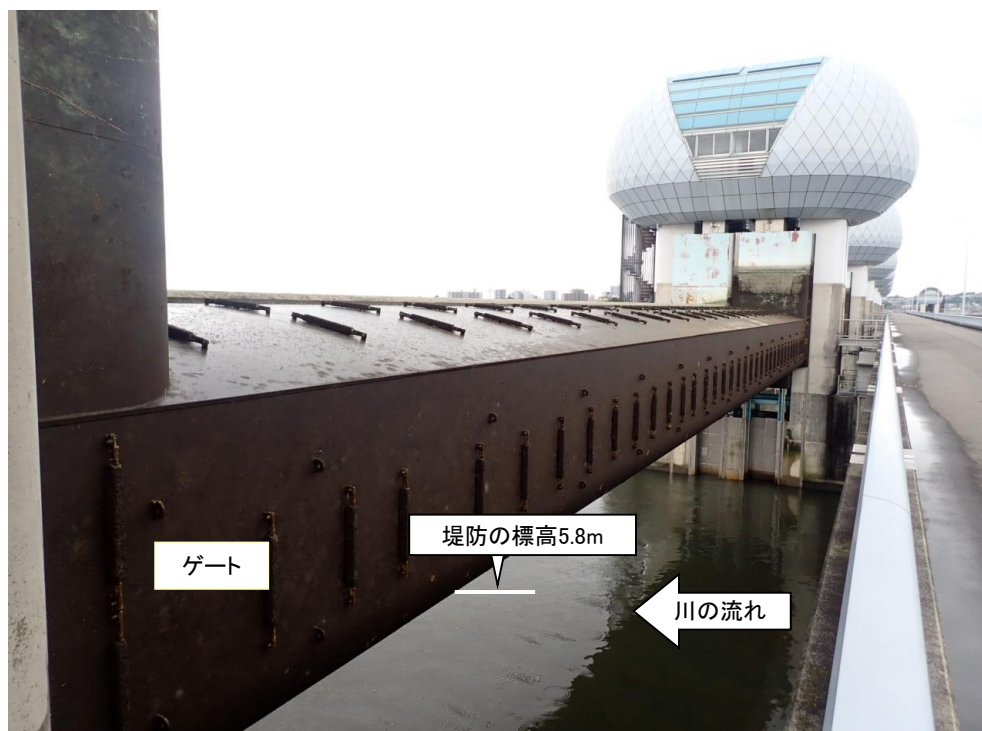
URL <https://www.water.go.jp/chubu/nagara/index.html>

ゲート全開操作開始後の長良川河口堰

6月15日9時撮影



堰下流側



堤防より高い位置にゲートを引き上げ

ゲート全開操作終了後の長良川河口堰

6月16日6時撮影



堰下流側 アンダーフロー操作に切り替え



アンダーフロー操作に切り替え

【参考】

通常時の長良川河口堰のゲート状態

* アンダーフロー操作時に流木等を除去し、オーバーフロー操作に切替える予定です。



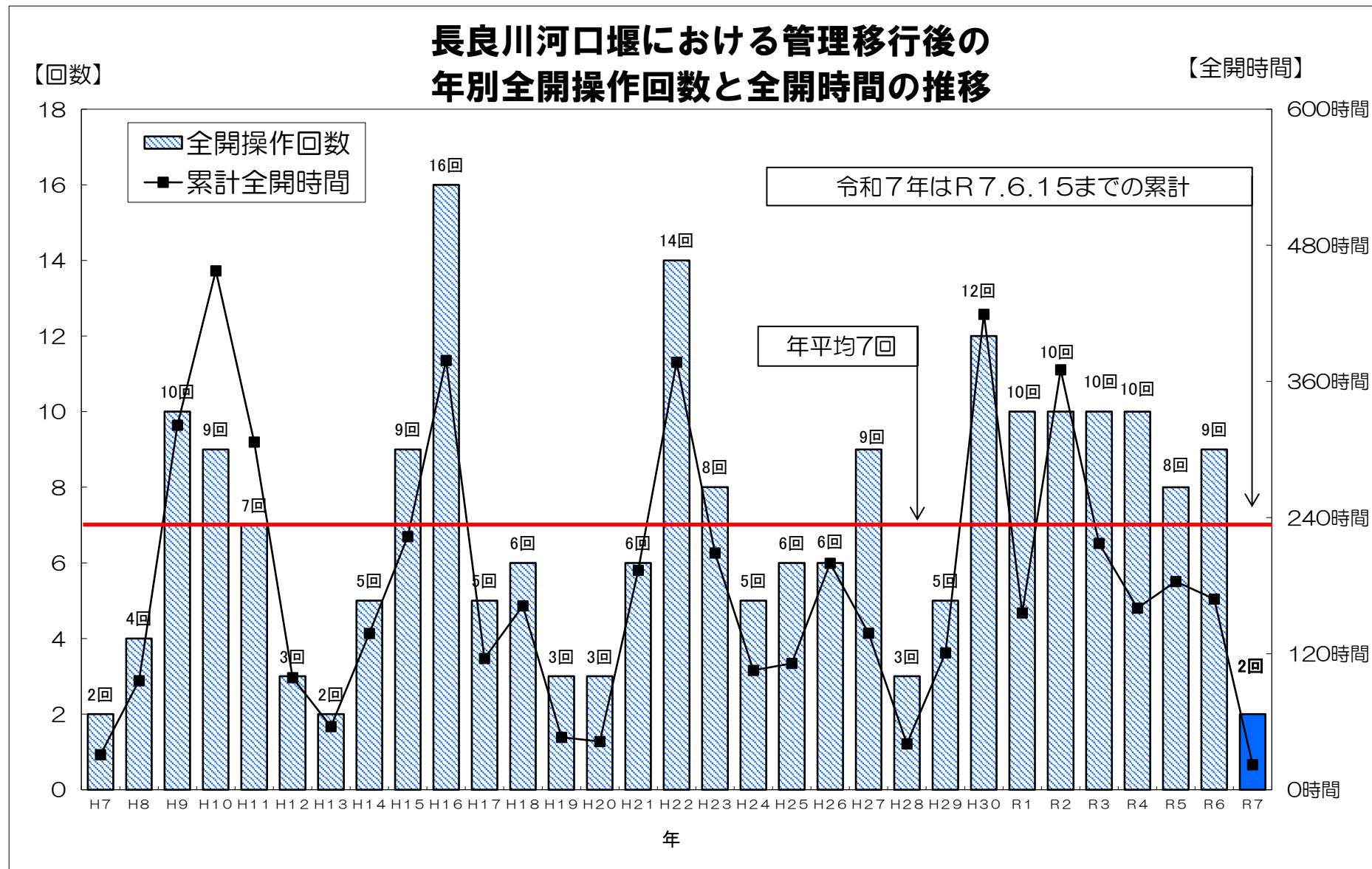
通常時の長良川河口堰(オーバーフロー操作による放流)



通常時の長良川河口堰(オーバーフロー操作による放流)

流域図

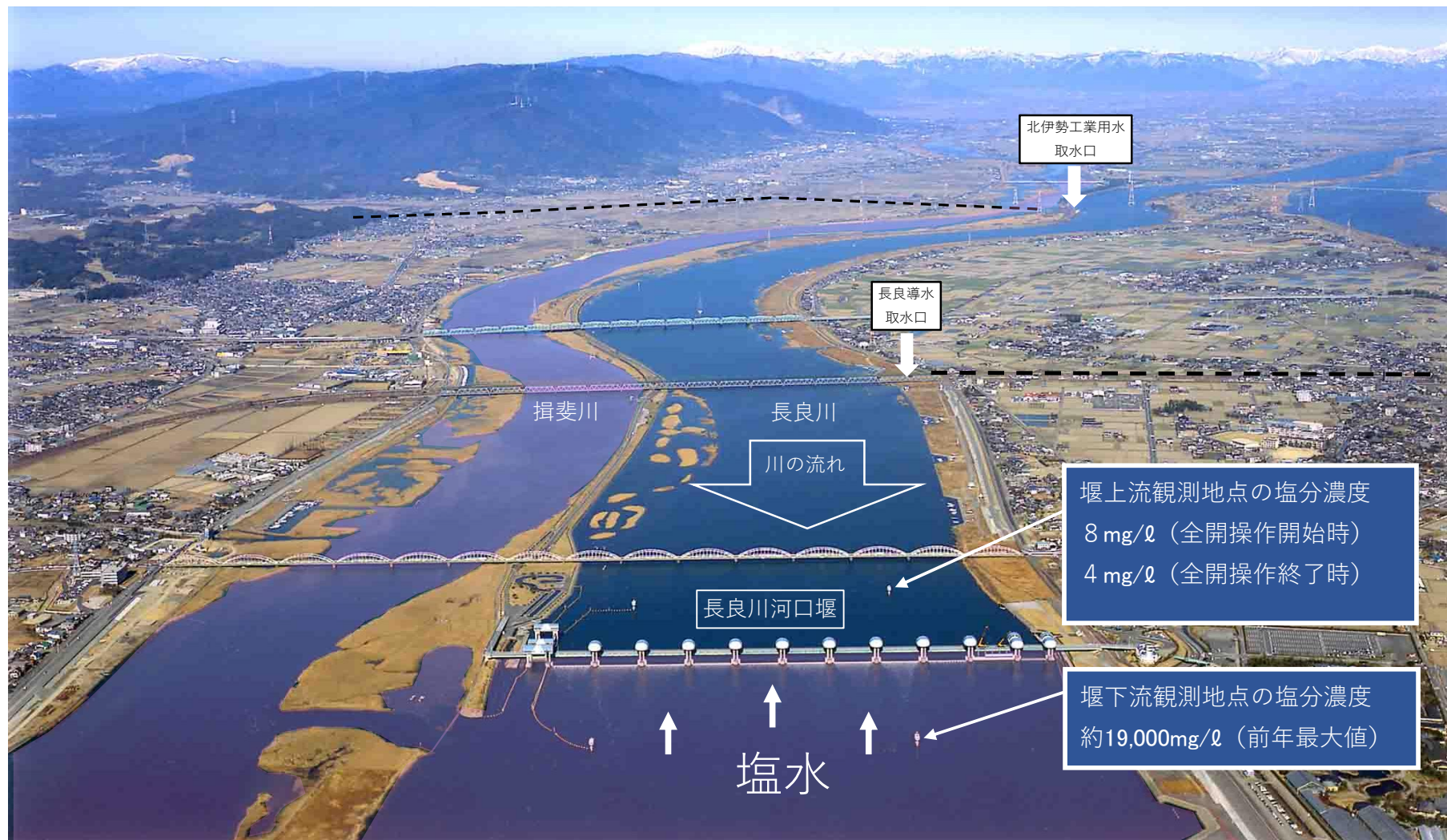




※R7.6.15までの全開操作回数: **217回**
 ※累計全開時間: 5665時間 34分

長良川河口堰と堰上流取水地点との関係（堰上流10kmの範囲）

（参考資料3）



長良川河口堰によって堰上流水域が淡水化され、新たに水道用水、工業用水の水が利用できるようになりました。
また、かんがい用水、工業用水（既得）などの既得用水についても、安定した取水が可能となっています。
飲用に適する塩分濃度は200mg/l以下、工業用では20mg/l以下であり堰上流部ではこれらの基準を満足しています。

※写真上の塩水の着色はイメージです。



平常時の操作

河川環境の保全に配慮し、河川水をゲートの上から流すオーバーフロー操作と、ゲートの下を流すアンダーフロー操作を行い、常に河川水を流下させるとともに、塩水の遡上を防止しています。

塩水の遡上を防止することで安定的な取水が可能です。

ゲート操作状況

オーバーフロー操作 上段扉を下げ 水をゲートの上から流す	アンダーフロー操作 下段扉を上げ 水をゲートの下から流す

洪水時の操作

洪水時には全てのゲートを堤防高(標高5.8m)より高く引き上げ、洪水の流下に支障とならないようにゲートの全開操作を行います。

また、下流水位の条件などにより塩水が河口堰より上流に浸入するおそれがある場合には、塩水の浸入を防止する操作を行います。

ゲート操作状況

ゲートを全開操作 ゲートを堤防高より高く引き上げる	塩水の浸入を防止する操作 塩水が浸入するおそれがある場合に行う

2025.06.15 堰上流基準地点(忠節地点)の河川水位

○長良川流域平均雨量 累計雨量 101mm (6月14日 8時 ~ 6月15日 14時)

○忠節地点水位 最高水位 0.10m (6月15日 9:40) (T.P. +12.66m)

